

早稲田大学 文化構想学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	一つのテーマにそった出題が定着。全体が「戦争」をテーマとして構成されている。昨年は「都市」、一昨年は「人の移動」であった。難易度は昨年に比べやや難化。部分的に、時事問題の出題がある。また、一部に年代に関する細かい出題がある。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔 〕	古代オリエント・新大陸の古代文明	設問2のウはアケメネス朝、エの楔形文字・太陰暦・六十進法はシュメール起源である。	易
〔 〕	歴史を決定づけた戦い	空欄補充・語群選択問題ともに全て教科書レベル、それも太字項目ばかりである。	易
〔 〕	中国関係史	設問1 - イの南越建国は前漢建国(前202)の1年前の前203年。設問2 - アの西域都護設置は前漢末の前59年である。設問5の永嘉の乱で中心となって活躍した民族名は「匈奴」。この匈奴は、東匈奴が南北に分裂(前48)したあとの南匈奴である。	標準
〔 〕	モンゴル継承国家	設問1 - ウのアルタン=ハンは15世紀半ばではなく16世紀の人物。設問2 - イの突厥分裂は7世紀末ではなく583年、つまり6世紀末が正しい。	易
〔 〕	デンマーク・スウェーデン抗争史(地図問題)	設問4にいう「近接した2都市」とは、ミュンスターとオスナブリュック。この一帯をウェストファリア地方といい、条約名となった。ライン川を目安にaを選択するが、aをオランダ領内と判断してしまうと正解は得られない。この2都市は歴史地図帳でないと記載されていないもの。判断に苦しんだ人も多かったと思われる。設問7のベルリンの位置は、エルベ川を目安に選ぶ。	標準 (一部難)
〔 〕	第1次大戦後のアジア	設問1 - ウの段祺瑞は安徽派の領袖。16年に袁世凱が死んだあと北京政府の実権を握っていた。設問5 - ウの「クルド自治」は、セーヴル条約(1920)では認められていたが、ローザンヌ条約(1923)では消滅した。この自治消滅が、現在のトルコ領内でのクルド人問題の起源となっている。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
[]	戦間期の米	設問3 - ウはローザンヌ会議をさす。設問5 - ウのドイツはヴァイマル憲法(1918)。	標準
[]	戦争と絵画(図版)	図版の絵画は全てよく知られているもの。設問2 - ウの「ロマン主義」は難しく考える必要はない。ただドラクロワは何派と問うているだけ。設問3 - イのバイロンは、問題文の中の「政治的理想を分かち合った」が「ギリシア独立支援」と見抜ければ簡単。	標準

〔総合コメント〕

昨年は一昨年に比べて大幅に易化したが、今年はやや難化。一つのテーマにそった出題は定着し、今年
 は「戦争」がテーマ。古代から現代まで満遍なく出題されている点も昨年と同じ。地図問題も昨年の中
 国に続いて、今年はバルト海・北海沿岸から出題された。全体として易しい問題が多い中で、地図関係
 は難問として際立っていた。易しい問題ではなかなか差がでないので、世界史で得点を稼ぎたい受験生
 はこの地図問題は得点源として大きい。来年も一定のテーマにそった出題と思われるが、テーマがどの
 ようになるかは別として、設問の内容の大半は教科書レベルに違いない。ひたすら幅広く、基礎的事項
 を徹底的にマークしておきたい。ただ、注意しておきたいのは先に触れた地図とあと年代関連、そして
 時事的事項である。今年でいうと、突厥分裂・15世紀のオイラト、16世紀のタタールといった世紀の枠
 に入る事項はいいとして、「南越の建国」のような1年違いの事項にはくれぐれも注意が必要である。ま
 た、クルド自治などは一種の時事問題である。現代世界で紛争地帯となっているような場所には敏感で
 ありたい。今年はアフリカ関係の出題がなかったのが、来年は要注意である。